

平成 21 年度 認知症地域支援体制構築等推進事業

経過報告（松阪市）

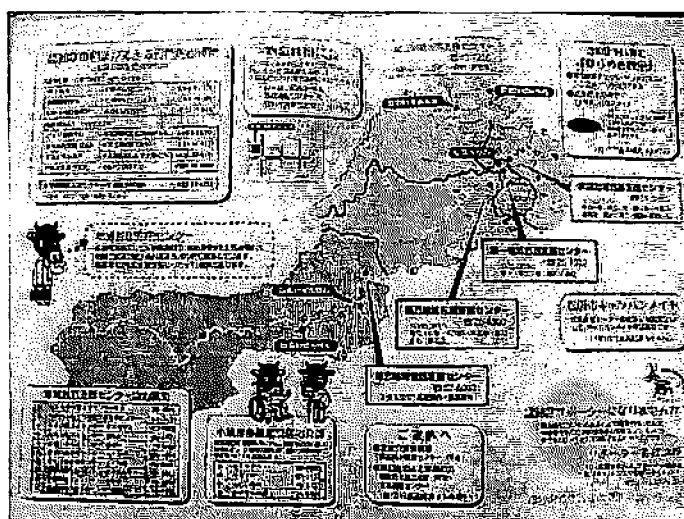
○事業経過

本年度も継続して当事業を受託することができた。昨年度の取り組みの一つひとつが『システムとして機能し定着していくよう道筋を作る』という課題は一朝一石には解決できるものではないが、コアメンバーである 5 つの地域包括支援センターが「認知症資源マップ作成」をツールとして地域づくりへ着手し、モデルとした小エリアで住民と共に地域実態を探りながら「この地域でどうすれば認知症の人や家族を支えることができるだろうか。」ということを考える作業を重ねたことはとても大切な動きであったと思う。

活動のあゆみ

月 日	事 項	内 容
4 月 2 日	事務局打ち合わせ	本年度事業の確認
4 月 7 日	第 1 回プロジェクトチーム会議	事業の確認とマップづくりの進め方
4 月 13 日	物忘れ相談会打ち合わせ	松阪厚生病院へ協力依頼
〃	民生委員協議会理事会	マップ（市共通版）と市の動きの説明
4 月 16 日	サポート医へ諸報告	物忘れ相談会、マップの件
4 月 24 日	自治会連合会理事会	マップ（市共通版）と市の動きの説明
5 月 7 日	ひらめき教室OB会①	20 年度実施のフォローアップ教室
5 月 11 日	第 2 回プロジェクトチーム会議	安心見守り隊構想について等
〃	民生委員協議会理事会	マップ（市共通版）と市の動きの説明
〃	幸地区民生委員協議会	〃
5 月 13 日	三雲地区民生委員協議会	〃
5 月 14 日	神戸・徳和地区民生委員協議会	〃
5 月 19 日	介護支援専門員協会松阪支部総会	〃
5 月 21 日	西部地区民生委員協議会	〃
6 月 2 日	商店街連合会 会長宅へ	認知症サポーター養成講座開催依頼
6 月 3 日	中央地区民生委員協議会	マップ（市共通版）と市の動きの説明
6 月 11 日	ひらめき教室OB会②	20 年度実施のフォローアップ教室
6 月 25 日	出前講座（万庄第二自治会）	虐待防止・認知症について
7 月 2 日	第 1 回モデル地域合同セミナー	認知症介護・研修東京センターにて
7 月 3 日	ひらめき教室OB会③	20 年度実施のフォローアップ教室
7 月 10 日	第二地区民生委員協議会	マップ（市共通版）と市の動きの説明
7 月 13 日	第 3 回プロジェクトチーム会議	認知症資源マップへの掲載内容検討

7月28日	飯高寿大学	マップ（市共通版）と市の動きの説明
7月30日	事務局打ち合わせ	マップの詳細や契約、今後の流れ
8月3日	各包括毎に協議	マップの詳細打ち合わせ
8月5日	〃	〃
8月6日	事務局打ち合わせ	共通版の増刷、ステッカーについて検討
8月11日	スーパーバイザーより指導得る	坂田直美先生
8月27日	第4回プロジェクトチーム会議	マップ原案・各包括の取り組み提出
9月4日	ひらめき教室OB会④	今回よりオレンジの会にて運営
9月7日	認知症疾患医療センター訪問	今後の動きについて聞き取り
9月10日	本年度第1期ひらめき教室開始	週1回12回コース 11月26日まで
9月13日	松阪市健康フェスティバル	タッチパネル体験コーナーで参加
9月16日	嬉野・三雲・阿坂合同 地域ケア会議	認知症の学習と高齢者安心見守り隊への 取り組み説明
9月17日	いきいきサポーター中級講座（認 知症）開始 11月26日まで	NPO認知症予防ネット（スリーA）を 学ぶ
9月18日	第2回モデル地域合同セミナー	認知症介護・研修東京センターにて
9月30日	認知症連携協議会設立準備会参加	認知症疾患医療センター主催
10月5日	第5回プロジェクトチーム会議	マップ最終すり合わせ等
10月6日	認知症キャラバン・メイトの集い	サポーター講座をいかに推進するかに ついて



<具体的な取り組み>

I. 医療との連携

1. 「物忘れ相談会」の開催

毎月開催（定員3～4人）

<当日の流れ>

- ① 受付
- ② 担当の地域包括支援センターの保健師等による主訴の聴き取りや確認作業、チェックリストの記入、タッチパネル式スクリーニングの実施など（1人約30分）
- ③ 担当医による相談（1人約30分） 基本的に①を行った担当者が同席する。
長谷川式スケールの実施。必要な方には、専門医のリストを情報提供する。
- ④ 全相談終了後、カンファレンス
- ⑤ 各支援関係者への連絡調整（かかりつけ医、ケアマネジャーなど）

月 日	担当医療機関（科目）	担当包括	参加人数
4月16日	南勢病院（精神科）	第五	3名
5月28日	こまだ神経内科（神経内科）	第一	3名
6月24日	松阪厚生病院（精神科）	第二	3名
7月16日	済生会明和病院（神経内科）	第五	4名
8月13日	松阪中央総合病院（精神科）	第四	3名
9月29日	済生会松阪総合病院（神経内科）	第三	3名
10月29日	南勢病院（精神科）	第一	
11月6日	済生会松阪総合病院（神経内科）	第二	
12月10日	南勢病院（精神科）	第三	
1月未定	松阪中央総合病院（神経内科）	第四	
2月10日	松阪厚生病院（精神科）	第五	
3月未定	松阪中央総合病院（神経内科）	第一	
計 12 回の予定			9月まで実績 延 19名

内訳

	開催回数	相談者			相談実数	性別		結果		
		本人	家族	ケアマネ		男	女	心配無	経過観察	要受診
H20	8	22	9	3	25	7	18	7	8	10
H21	6	18	4	0	19	6	13	4	6	9

「物忘れ相談会」は、精神科・神経内科の医師の協力により、月1回の定期的な開催を続けている。専門医療機関への受診をためらう人は多いが、ここでは『相談会』と銘打ってあるため一歩が踏み出しやすいようだ。また予防段階の方や軽度な方に対しては予防教室へ誘うきっかけにもなっている。

本年度新たに精神科医師1名と神経内科医師2名の協力を得ることができたものの、毎月広報誌への掲載期限に追われながらのスケジュール調整となるなど、担当医師の拡大・確保が依然課題となっている。

2. 認知症予防への取り組み

①スクリーニング（タッチパネル式物忘れ相談プログラム）の実施

昨年度導入した認知症スクリーニング機器を使い、「脳の健康チェック」を計8回行い、延べ115人が参加した。（8月末まで）

単にスクリーニングのみを行うのではなく、個別に保健指導を組み合わせることで不安を与えることのないように配慮するとともに、15点満点中13点以下の方や気になる方を予防教室へ誘うようにした。また、ミニ講座として脳活性化のゲームを体験してもらうことで認知症予防教室が楽しいものであることを伝え、先入観や抵抗感を取り除き、教室へ誘導しやすいよう配慮した。

また、専門機関受診が必要と考えられるケースについても、物忘れ相談会へ繋ぐことで早く専門医のアドバイスを得ることができるよう配慮した。見守りや支援が必要なケースについては、住所地の地域包括支援センターが継続して関わるようにし、その後の情報についてサポート医等にフィードバックし、連携を深めていけるよう努めたい。

②認知症予防教室

○第三包括主催 脳トレ教室

対象者 物忘れ等の認知症症状に不安のある方

実施日	場所	内容	担当者・講師
6/9～11/24 週1回24回コース	飯南	「読み書き」「計算」の学習により脳を活性化する	包括職員、サポーター
6/11～11/19 週1回24回コース	飯高	同上	同上

○介護高齢課主催 ひらめき教室

対象者 物忘れ等の認知症症状に不安のある方、脳の健康チェックや物忘れ相談会において予防教室参加が適当と判断された方

実施日	場所	内容	担当者・講師
9/10～11/26 週1回12回コース	市民病院	スリーAのゲームにより脳を活性化する	市担当者、オレンジの会（サポーター）

II. 認知症の人や家族を支える人材の育成・地域づくり

1. 認知症の人を支える住民活動・・・

介護予防いきいきサポーター「オレンジの会」

介護予防いきいきサポーターとして登録。(11名)

宅老所への支援、認知症予防教室のサポート、認知症予防教室OB会の支援などで活躍中。オレンジの会では、月1回定例会(松阪公民館)を開催し、宅老所における介護予防(認知症予防)教室の報告を行って情報交換をしたり、ひらめき教室やOB会の運営についての検討やスリーAゲームの復習を行っている。

市の介護予防サポーターとしての位置づけであることや、内容が市の事業のサポートやその後の受け皿となっていることから、現在のところは市の担当者が毎回出席し、運営の支援を行っている。

2. 認知症サポーター養成講座の展開とキャラバン・メイト支援

	平成 17 年～ 平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度 (8 月まで)
実施回数	9 回	37 回	29 回
延べサポーター数	234 人	1,482 人	798 人
累計サポーター数	234 人	1,716 人	2,514 人

後述する地域資源マップについての取り組みが進むにつれ、サポーター養成講座も多く展開されるようになった。平成 23 年度末までに 5,000 人のサポーター養成をめざしていたが、設定した年度目標値を超えたため上方修正し 7,000 人としたところである。

また、いくつかの民生委員協議会から、「もう一度認知症を学びなおしたい。」という要請が出たり、公民館講座の中に講座を組み込んでもらえるところが増えたりと、関心の高まりが感じられるようになった。

メイトの支援という点では、メイトを本事業の核となる人材と位置づけ、マップの骨子検討やアイデア提供を求めてきたが、そのことで逆に本来の「サポーター養成講座の講師役」という役割が不明瞭となり、講座の講師役が一部のメイトに限られてしまっていた。事業の進捗状況をフィードバックするとともに、他のメイトの活動を伝えたり、中には「こんなに楽しくやっている。」といった寸劇の披露や、うまく専門職タイアップしてやっている事例などの紹介をして、今後も地域づくりに積極的に関わられるよう促したい。

職域においては、本年度イオングループ(マックスバリュ中部)が県と協働して、各店舗従業員を対象にサポーター養成講座を展開した。6月12日、7月24日の2回で延べ197名が受講。講師は第四地域包括支援センターの奥田氏に依頼した。他にも百五銀行、

第三銀行などでも講座開催が進み、サポーター講座の内容と併せて市の動きや包括のマップ作りについての理解を求めることができてきた。

3. 地域資源マップづくりと地域へのアプローチ

マップ作成を地域づくりのツールとして位置づけ、昨年度は市全体の情報を掲載した共通版の作成を行ったが、本年度は各地域包括支援センターが、それぞれ設定した小エリアでのマップづくりに着手した。(詳細は別紙参照)

高齢者安心見守り隊の構想

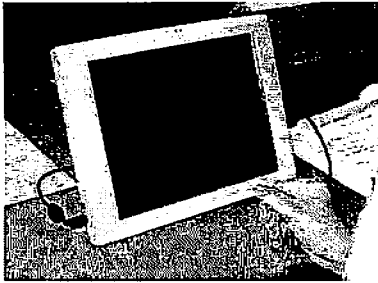
マップづくりの話し合いの中から、地域の高齢者が安心して暮らし続けられるよう、高齢者本人の権利擁護を最優先していくことをめざし、認知症を正しく理解した上で、進んで地域で見守り活動に協力していただける方を養成していこうという構想が出てきた。そこで5つの地域包括支援センターはそれぞれの設定した小エリアで、「高齢者安心見守り隊」を養成し登録を進めた。本年度中に、5つの小エリアの資源マップを市全体の共通版とともに配布し、更なる啓発に努めたい。

手法はそれぞれだが、地域の実態に合わせた取り組みが今後も進んでいくよう支援を続けたい。

担当 包括	実施日	対象者	講師・担当	参加 人数	安心見守り隊 登録者数
第一	7/27	愛宕町・挽木町住民	第一包括 介護高齢課	28	76
	7/29	茶与町・五十鈴町・ 平生町・長月町住民		30	
	8/4	春日町・南町・垣鼻町住民		27	
第二	7/10	H21 認知症サポーター	第二包括 介護高齢課	47	19
	7/24	養成講座受講生		8	
第三	8/24	H19、20 認知症サポーター 養成講座受講生	第三包括 介護高齢課	23	19
第四	6/21	第四地区福祉会 ボランティア部	第四包括、 キャラバン メイト	35	18
第五	8/24	H20 認知症サポーター 養成講座受講生	第五包括 在介センタ ーカトレア	42	35

Ⅲ. 今後の予定

1. 11月11日(水) 介護の日イベントに「脳健康チェック」で参加



タッチパネル

画面をタッチして答える(15問)

2. 11月12日(木) 介護の日関連リレーシンポ 松阪市産業振興センター
医師2名の講話、認知症サポーター養成講座
3. 3月14日(日) 認知症市民フォーラム 松阪市市民文化会館
 - ・鳥取大学 浦上克哉教授による講演
 - ・浦上教授と山中光茂市長との対談
 - ・タッチパネル体験コーナー
 - ・地域包括支援センターの取り組み 展示コーナー など
4. 3月13日(土) 認知症キャラバン・メイト養成研修



まとめ

参加したモデル地域合同セミナーで、今後の事業を有効なものにするためには事業の全体感と事業マネジメントが不可欠であると学んだ。事業の関係者が最終の目的を見失わずに支援体制を築いていくために、また、モデル事業期間の限られた時間を有効に活かすために、そして取り組んだことが継続的に発展していくために、今やることを確認していくことが大切なのだろう。

無我夢中で取り組んではきたものの、進展したところもあれば未着手の部分も多い。

課題を整理し、学んだことや方向性を共有化することから始めなくてはならない。

幸いにも市内5つの地域包括支援センターで同時に地域づくりに着手でき、地域包括支援センターの動き自体を活性化し底上げを図る取り組みになったのではないかと感じている。マップに特化していえば、永遠に完成型はなく、出来上がったものを持って地域に飛び出していくこと、ネットワークをひろげていくことが大切だ。養成した「安心見守り隊」の人々や地域の機関との連携もまさにこれからである。

ご本人の視点・ご家族の視点がきちんと押さえられているのかを検証しながら、今後も取り組んでいきたいと思う。